

キリストが祈られた祈り

(ヨハネ17・20〜26)

一、父と子の交わりに与る

ヨハネの福音書は、13章1節より、主イエス・キリストが十字架にかかられる前日の夜、弟子たちと共に一日早い過越の食事をした時のことが書かれています。そして14章、15章、16章と長い決別説教が語られ、17章に主が祈られた祈りが書かれています。十字架で、全人類の罪を背負って贖いの死を遂げられる前の晩、神の御子であり人となられた主イエス・キリストがどんな祈りをなさったのか。そのことを考えるだけでも、興味をそえられる箇所です。20節をご覧ください。〈わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願ひします。〉と主は祈られました。〈彼らのことばによってわたしを信じる人々〉とは、だれのことばなのしょうか。それは、弟子たちの宣教活動によって救われてくる人々、すなわち教会です。〈彼らのことばによって〉とありますが、〈ことば〉は何を指しているのでしょうか。二元のことばは「ロゴス」の単数形です。前後関係から、父である神と主イエスが一つであると語られていることばかと思われま

たがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。と。ヨハネの福音書が語るイエスは、父である神と主イエスが一つであることを語っています(ヨハネ14・9)。それだけではありません。その、父と子が一つであることに、教会も関わるのです。それが、21節の意味かと思われま

二、十字架と復活の福音

22節をご覧ください。〈またわたしはあなたを下さった栄光を彼らに与えま

した。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。と、主イエスは祈られました。〈栄光〉とは何でしょうか。17章1節に、聞くことができます。〈子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。〉と主イエスは祈りましたが、主イエス・キリストが、全人類の罪を背負って十字架で贖いの死を遂げられ、父である神が御子を死者の中から復活させて、罪人である人間が、キリストを信じるだけで救われるという「栄光」です。その、福音に生かされる恵みを、主は「教会に」授けられました。

三、みこころになつた知識

23節をご覧ください。〈わたしは彼らのうちにて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。〉と、主は祈られました。〈わたし〉とはイエス、〈彼ら〉とは教会、〈あなた〉とはイエスが呼びかけられた父である神のことです。このような一致がある時、すなわち、父、御子、それに加えて聖霊、そして教会の交わりがある時、〈世〉は、すなわち世の人々は、神を知るようになる」と語られています。

24節をご覧ください。〈わたしに下さったもの〉とは、「人々」のことです。それは、弟子たちのことであり、後の教

会です。〈わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。〉と、主は祈られました。キリストは、天におられる大いなる方の御座の右に座しておられます。そして今も、私たちのために、そのように祈っておられます。なんと心強いことではありませんか。〈わたしがいるところ〉とは、主イエスがいつも父である神と交わり、一つになっておられるところです。その交わりに私たち、すなわち教会も入られています。

25節をご覧ください。〈この世はあなたを知りませんが〉と主は語られました。この世は、神を見いだしません。かの宗教指導者層であったパリサイ人とサドカイ人も、神を見いだすことはできませんでした。ですが、〈この人々〉は、すなわち教会は〈あなたが(父である神が)わたしを(主イエス・キリストを)遣わされたことを知っています〉と、主は祈られました。

26節の締めくくりにのことばを見てまいります。〈わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。〉と主は祈られました。嬉しいですね。主は聖霊によって、時が良くても悪くても、御名を知らせてくださいます。すなわち、天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないと語り続けてくださいます。